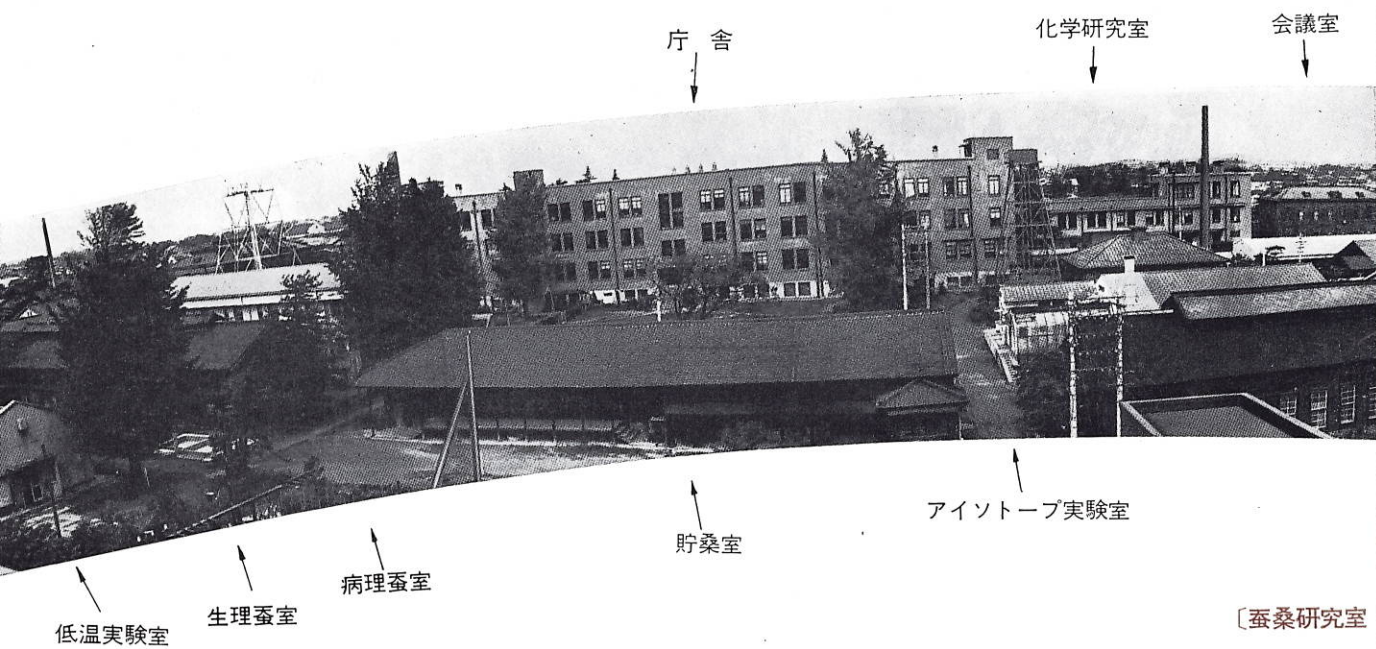


要覽

1965

農林省蚕糸試験場





蚕糸試験場の使命

当場は創立以来50余年にわたり、蚕糸の生産と利用に関する基礎的、応用的研究を行ない多くの業績をあげてきました。

今日、蚕糸絹業を発展させるための体質改善の成否は、蚕糸研究推進の成否にかかっているため、当場においては絹の生産と需要増進に関する研究の強力な発展をつうじて国の研究機関としての使命を達成しようと努めています。



屋上よりみた本場]

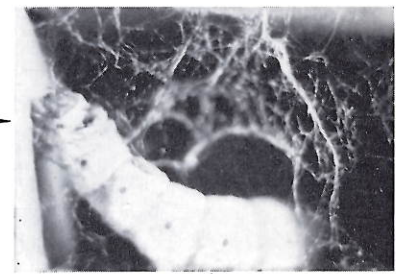
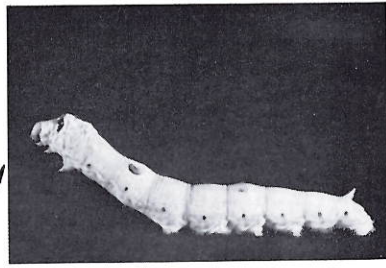
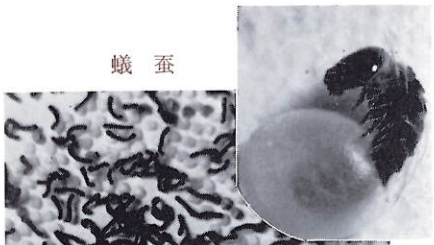
[蚕の一生]

蚕 児

営 繭

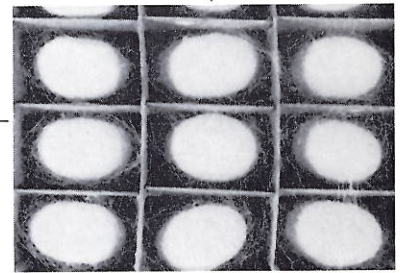
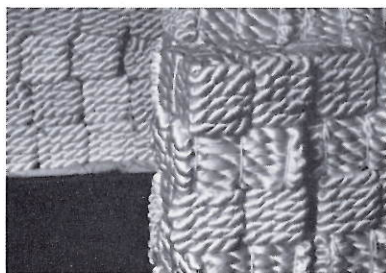
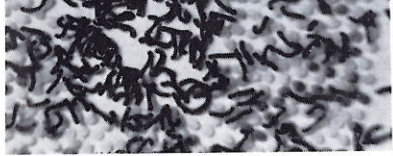
孵 化

蛾 蚕



生 糸

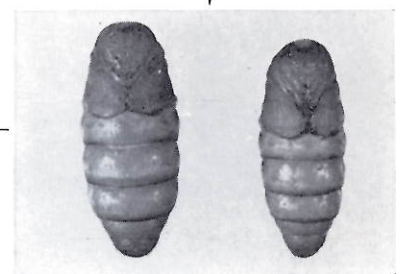
繭



産 卵

蛾

蛹



〔凍霜害の研究〕

低温度合を異にした桑の被害状況

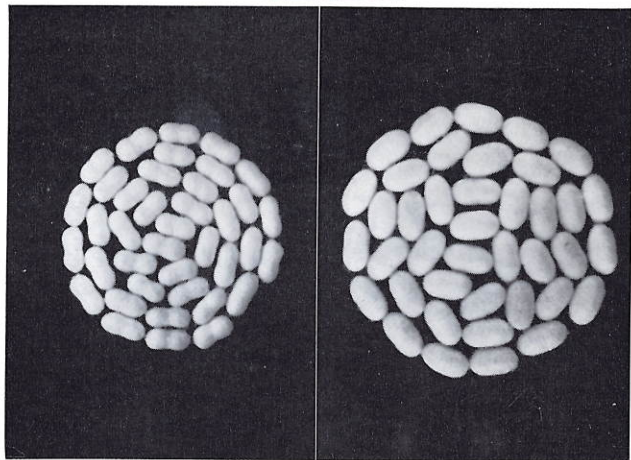


凍霜害の実験室(日野桑園)

桑の凍霜害実験装置



〔蚕の品種改良〕



昔の繭

今の繭

沿 革

当場は、農林省の所管に属し明治44年に原蚕種製造所として創立されましたが、その後事業の拡張によって大正3年に蚕業試験場となり、さらに昭和12年に現在の名称に改められました。

組 織

場長

- 技術室(3科)
- 連絡室(3課3分室)
- 総務部(9研究室)
- 生理部(7研究室)
- 育種部(5研究室)
- 養蚕部(5研究室)
- 病理部(6研究室)
- 製糸部(7研究室)
- 絹繊維部(6研究室)
- 化学部(7研究室)
- 日野桑園(東京都日野市)
- 桑育種第2研究室(小千谷市)

本場

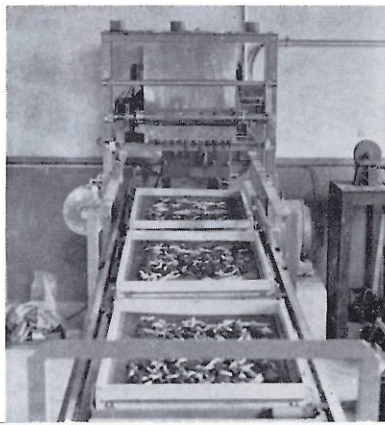
支場所

- 東北支場(1課5研究室)
- 中部支場(1課5研究室)
- 関西支場(1課5研究室)
- 九州支場(1課5研究室)
- 新庄原蚕種製造所(1課3研究室)
- 小淵沢原蚕種製造所(1課3研究室)
- 宮崎原蚕種製造所(1課3研究室)
- 屋久島分室
- 岡谷製糸試験所(1課4研究室)

〔桑 刈 取 機〕



〔人工飼料による蚕児の飼育〕

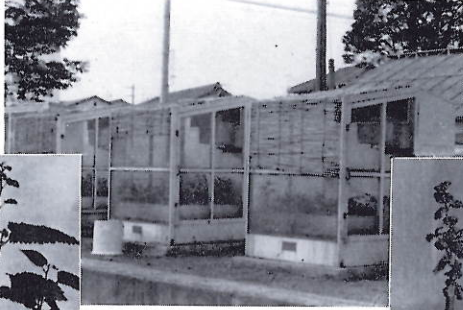


〔蚕桑の病虫害防除の研究〕



蚕の中腸型多角体の顕微鏡写真

コイトロン（温度調節育苗室）



萎縮病桑
（新梢挿木）



萎縮病桑
（古条挿木）



蚕の軟化病ウィルスの電子顕微鏡写真

定員と予算

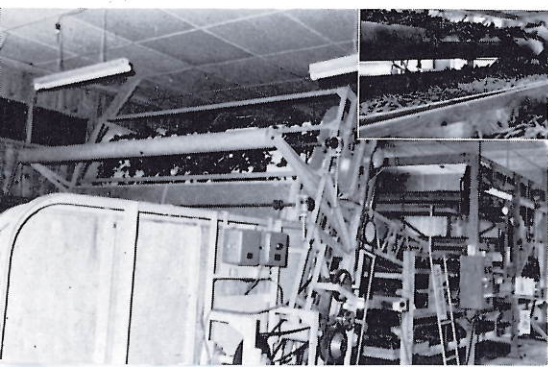
定員（昭和39年度）	855人	— 本場	471人
		— 支場所	384人
予算（昭和39年度）			
総額	759,778千円		
うち人件費	523,132千円		
事業費	236,646千円		

土地と建物

40.3.31 現在

敷地	{ 88,628 坪	（うち本場 13,480 坪）
	{ 292,472 平方米	
桑園	{ 221,533 坪	
	{ 731,059 平方米	
建物(延)	{ 24,758 坪	
	{ 81,702 平方米	

〔移動蚕座式飼育装置〕



〔アイソトープの利用研究〕

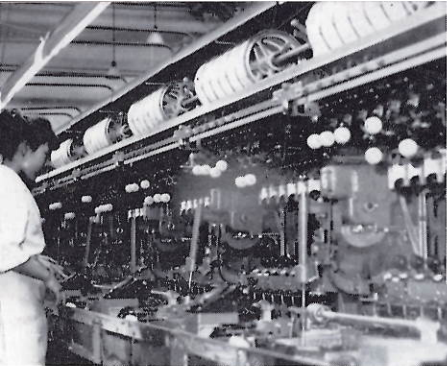
³²Pで標識した土壌を圃場に注入しているところ



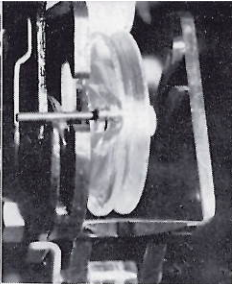
アイソトープ
実験室

γ線照射室で桑苗を照射しているところ

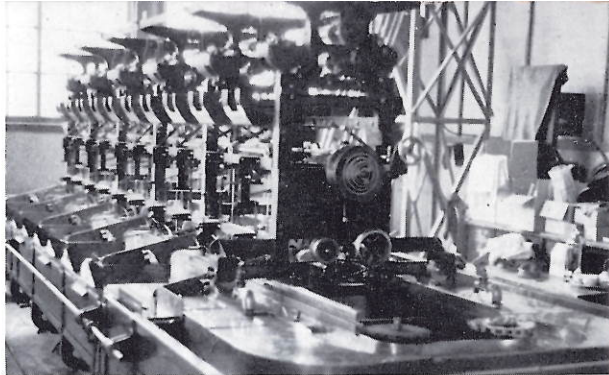




繭検定用自動繰糸機



織度感知器
繰糸中の繭糸の太い細い
を感知するもので自動繰糸機
において特に重要な役割をする。



玉糸自動繰糸機

[製糸の研究]

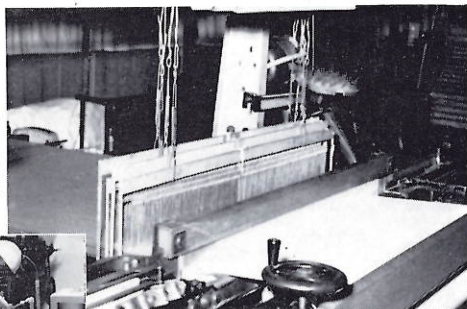
研 究

当场における研究の課題は農政の方向，技術実施の場からの要望等を考慮して決められることとなっていますが，現在は次のような研究課題について各部，支場所において研究をすすめています。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 桑の育種に関する研究 | 9. 育蚕の生理に関する研究 |
| 2. 桑の栽培技術に関する研究 | 10. 養蚕技術に関する研究 |
| 3. 桑園の土壌および肥料に関する研究 | 11. 養蚕経営に関する研究 |
| 4. 桑の災害防除に関する研究 | 12. 蚕および絹糸類の病虫害防除に関する研究 |
| 5. 桑の病虫害防除に関する研究 | 13. 製糸技術に関する研究 |
| 6. 桑葉の葉質に関する研究 | 14. 繭の検定格付に関する研究 |
| 7. 蚕の育種に関する研究 | 15. 絹繊維の加工技術に関する研究 |
| 8. 蚕種に関する研究 | 16. 絹糸質に関する研究 |

[絹繊維の研究]

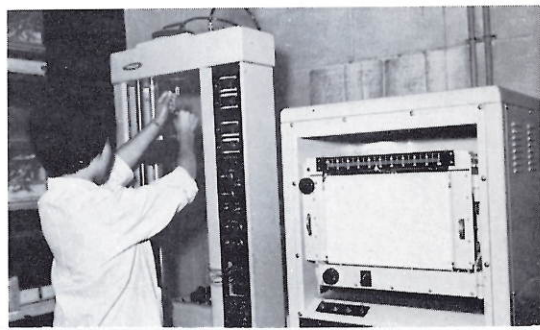
機織実験装置



検撚器
製織，製編
等の準備工
程中最も大
切な糸の撚
り数を測定
する装置



テンシロン（万能型引張試験機）





当場の刊行物



展示室の一部

研究以外の業務

当場では研究以外の業務として次のような事業を実施しています。

1. 桑の接穂の配付

優良桑品種の普及をはかるため当場で育成した国桑3品種の接穂および在来の優良品種の系統を正しくするための桑苗生産母樹園改植用接穂の配付。

2. 原原蚕種の配付

蚕糸試験場蚕種配付規程により、当場で育成した蚕品種の原原蚕種と他で育成された蚕品種の原原蚕種を都道府県および蚕種製造業者の請求に応じて製造、配付。

3. 繭検定教婦講習

都府県繭検定所の検定技術を統一するため繭検定業務の指導にあたる教婦の短期講習。

4. 依頼分析

蚕糸関係者の依頼に応じて行なう物料の化学分析。

研究業績

1. 刊行物

試験研究調査の成果は、蚕糸試験場刊行物および学術雑誌に発表し、学界および関係業界の参考資料としていますが、当場刊行物の種類および出版概況は次のとおりです。

(昭和40年6月現在)

種 別	発刊様式	創刊年月	既刊の巻号
蚕糸試験場報告	不定期	大正 4. 7	19巻4号
蚕糸試験場彙報	不定期	大正 6.12	87号
蚕糸研究	年4回	昭和 27. 4	55号
蚕糸試験場資料	不定期	昭和 13. 5	16号
臨時刊行物	不定期	大正 5. 9	4号
欧文報告(現在は廃刊)	不定期	大正 5. 5	6号

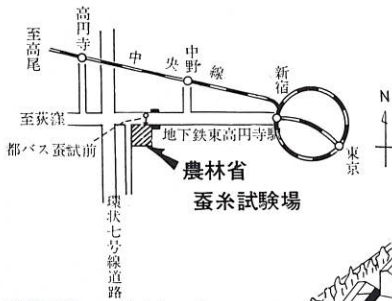
2. 特許および実用新案登録

蚕糸試験場の発明にかかる特許は現在まで215件、実用新案登録は105件に達していますが、これらのものは国有となっており希望される向には実施許諾をしています。

案 内

当場では、わが国蚕糸業の現況と、蚕糸研究の内容を知っていただくために展示室を設置しておりますので、いつでもご来場のうえご覧下さい。

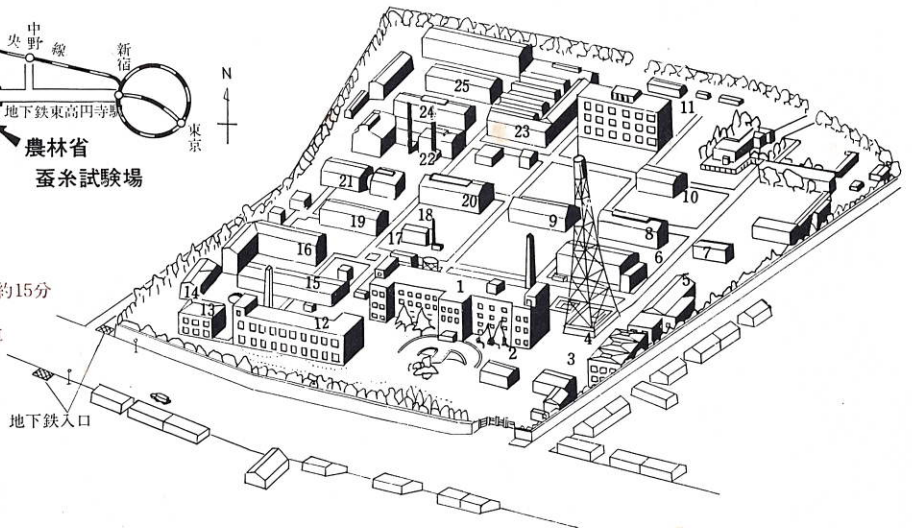
蚕糸試験場までの経路略図



- 1 国電中野駅・高円寺駅より徒歩約15分
- 2 都バス 蚕糸試験場前下車
- 3 地下鉄 荻窪線 東高円寺駅下車

蚕糸試験場建物配置図

所在地 東京都杉並区 高円寺2丁目104
電話 東京 (311) 0121(代)



- | | | |
|------------------------------------|-----------|----------------|
| 1. 庁舎 (技術連絡室・総務部・製糸部・化学部・絹繊維部・病理部) | 8. 生理蚕室 | 17. 土壌研究室 |
| 2. 展示室 | 9. 貯桑室 | 18. アイソトープ館 |
| 3. 図書室 | 10. 低温実験室 | 19. 精練研究室 |
| 4. 給水塔 | 11. 蚕桑研究室 | 20. 原料繭研究室 |
| 5. 特別蚕室・冷蔵庫 | 12. 化学研究室 | 21. 乾繭室 |
| 6. 病理蚕室 | 13. 染色研究室 | 22. ボイラー室 |
| 7. 蚕桑病虫害実験室 | 14. 会議室 | 23. 繭検室・繰糸研究室 |
| | 15. 機械実験室 | 24. 煮繭・特殊生糸研究室 |
| | 16. " | 25. 製糸機械研究室 |